

# 「京都を学ぶセミナー洛西編」第6回（開催報告）

2020年11月10日  
京都学・歴彩館  
075-723-4835

2018年度から開始した「洛西の文化資源」研究プロジェクトの成果を分かりやすく解説する「京都を学ぶセミナー【洛西編】」第6回を、下記のとおり開催しましたので報告します。

## 記

- 日 時 2020年11月10日（火）13:30～15:00
- 会 場 京都学・歴彩館大ホール
- 参加者数 172名
- 内 容 講 演 京都芸術大学非常勤講師 町田 香  
「洛西が生み出した日本庭園の魅力」

### ■ セミナーの様子と当日の参加者の声

第6回セミナーでは、洛西地域の庭園の歴史について講演があった。天龍寺庭園や西芳寺庭園など個別庭園の研究蓄積は膨大にあるが、洛西地域の地域的な庭園文化の特徴については明確ではなかった。本講演では発掘調査結果や絵画資料の検討を中心に、洛西地域の庭園文化の地域的な特徴と魅力が紹介された。

洛西地域の庭園文化の重要な特徴の一つは「宮廷の庭の地」であったということである。現存する庭園はほとんどないが、平安時代には天皇・貴族の離宮・別業が多数あり、近世にも桂離宮をはじめとする八条宮家の庭園が複数あった。中世洛西地域の庭園は禅宗寺院の庭が多い。禅僧として作庭に携わり、その後の枯山水の発展に寄与するなど、日本庭園史上でも最重要人物の一人である夢窓疎石が作庭した天龍寺庭園、西芳寺庭園、臨川寺庭園などが現存する。江戸時代には現在も代表的な庭園である鹿苑寺、西芳寺、天龍寺、桂離宮、龍安寺、妙心寺、神護寺の庭園が地誌で紹介されている。なかでも『都林泉名勝図会』に描かれた妙心寺の庭園群は現況とほとんど変わらず、貴重な記録といえる。このほか近現代に作庭された庭園も少なくない。小川治兵衛や重森三玲による庭もわずかながら存在することが紹介された。

「庭園の具体的な紹介がよかった」、「洛西地域に限定した庭園の話で興味深い」、「夢窓疎石の作庭の話が良かった」など参加者から好評を博した。

